

第93回がん対策推進協議会

令和8年3月9日

資料1 - 1

A Y A 世代がん患者の現状及び最近の施策（報告）

令和8年3月9日 第93回がん対策推進協議会

厚生労働省

健康・生活衛生局がん・疾病対策課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

第4期がん対策推進基本計画（令和5年3月28日閣議決定）

※AYA世代にあるがん患者の在宅療養環境に関する記載（一部抜粋）

第2 分野別施策と個別目標

3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

（4）ライフステージに応じた療養環境への支援 ①小児・AYA世代

（現状・課題）

- がんによって、個々のライフステージごとに、異なった身体的問題、精神心理的問題及び社会的問題が生じることから、患者のライフステージに応じたがん対策を講じていく必要がある。
- さらに、人生の最終段階における療養場所として、一定数のがん患者が自宅や地域で過ごすことを希望している中、小児・AYA世代のがん患者の在宅での療養環境の整備が求められている。**AYA世代のがん患者は、利用できる支援制度に限りがある等の理由から、在宅で療養することを希望しても、患者やその家族等の身体的・精神心理的・経済的な負担が大きいことが指摘されている。**

（取り組むべき施策）

- 国は、長期フォローアップや移行期支援など、成人診療科と連携した切れ目ない支援体制が、地域の実情に応じて構築できるよう、患者の健康管理の方法、地域における療養の在り方、再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制等の医療・支援の在り方について検討する。
- **国は、小児・AYA世代のがん患者の療養環境の課題等について実態把握を行い、診断時からの緩和ケア提供体制や在宅療養環境等の体制整備**について、関係省庁と連携して検討する。

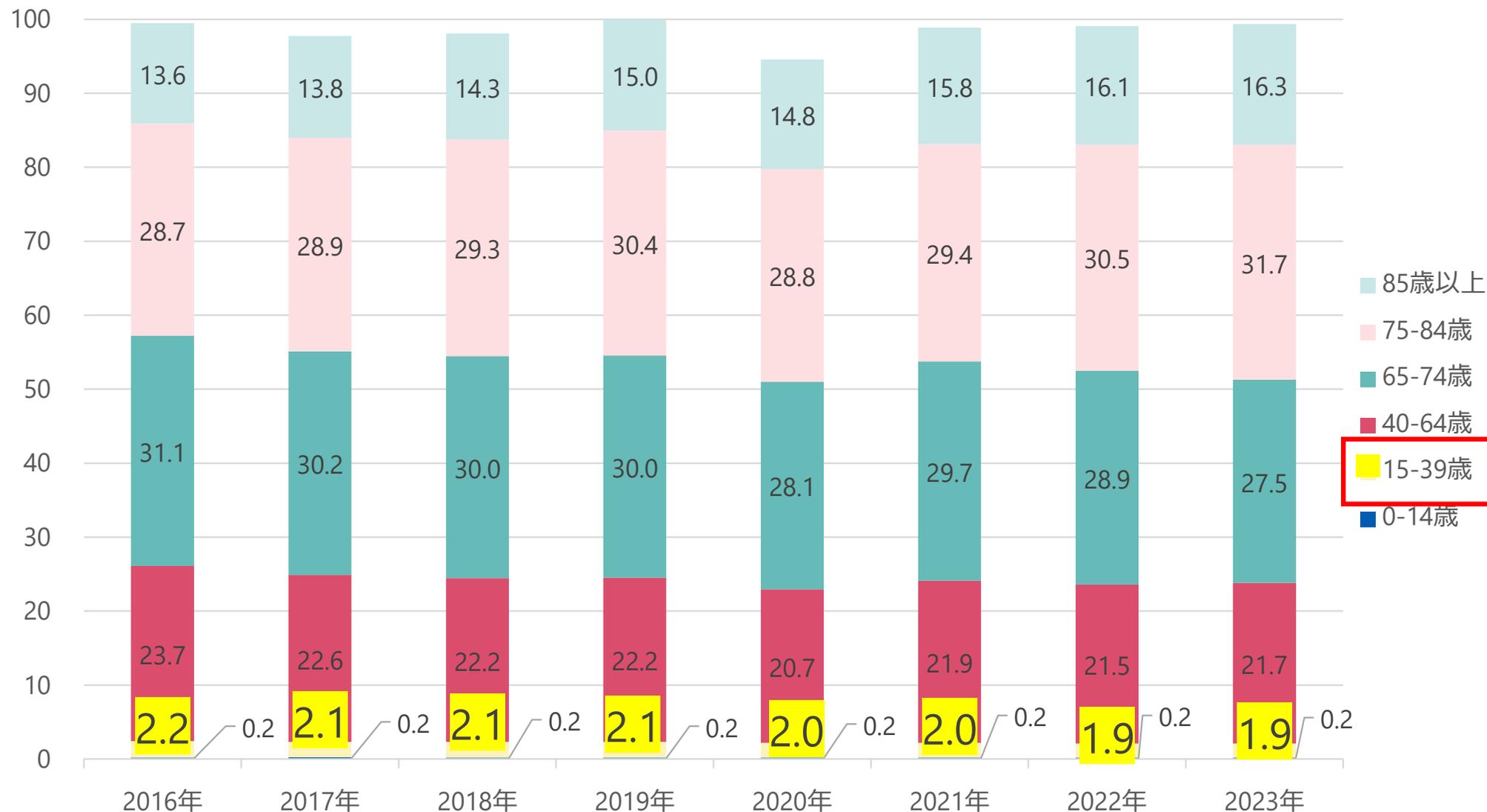
【個別目標】

- 小児・AYA世代の患者への教育、就労、長期フォローアップ等の支援や、高齢のがん患者への療養環境への支援を行うことで、がん患者がライフステージごとに抱える問題に対し、適切な支援を受けられることを目指す。

悪性新生物の罹患数の推移（年齢階級別内訳、全年齢）

全年齢のがん罹患数(約100万人)のうち、AYA世代(15～39歳)のがん罹患数は約1.9万人。(減少傾向)

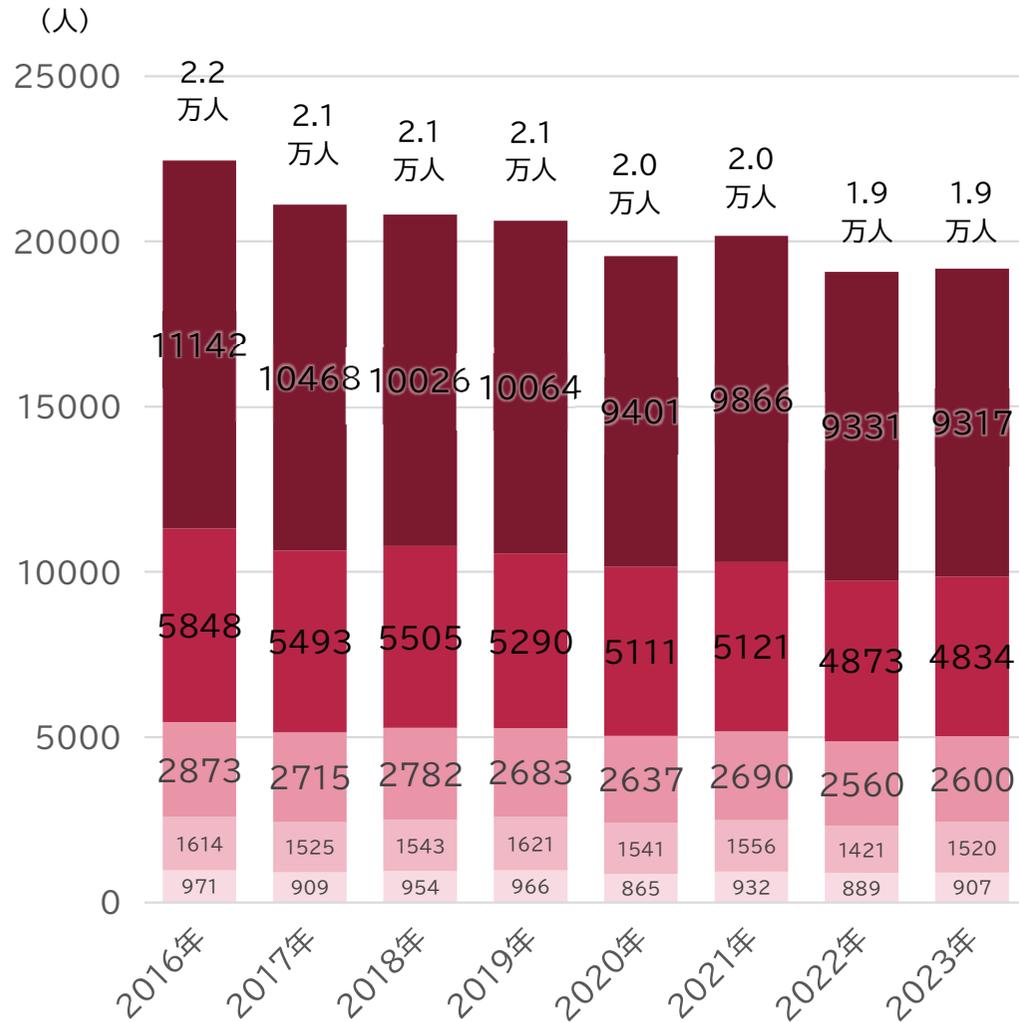
(単位:万人)



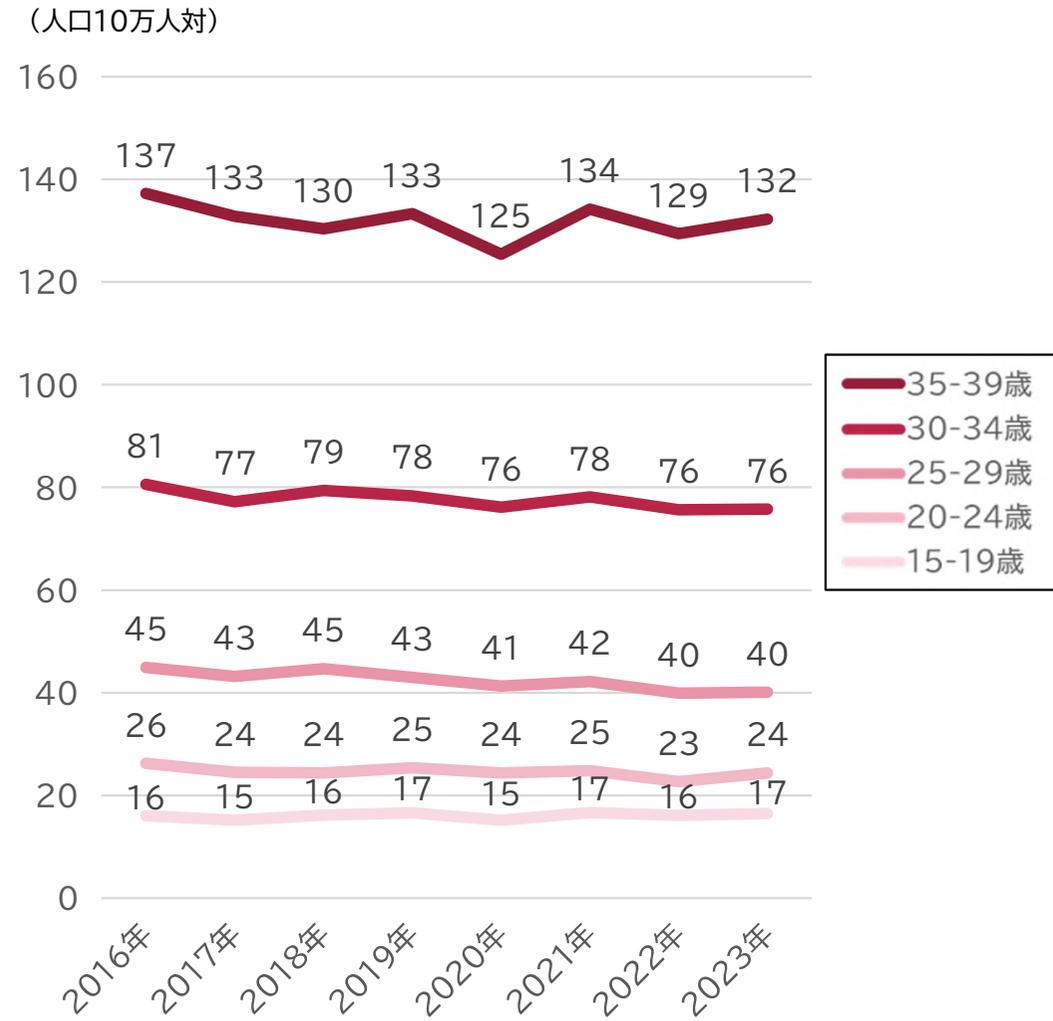
がん罹患数及び罹患率の推移（15～39歳）

AYA世代(15～39歳)について、がん罹患数は減少傾向であり、罹患率は横ばい。

15～39歳がん罹患数(全部位、男女計)



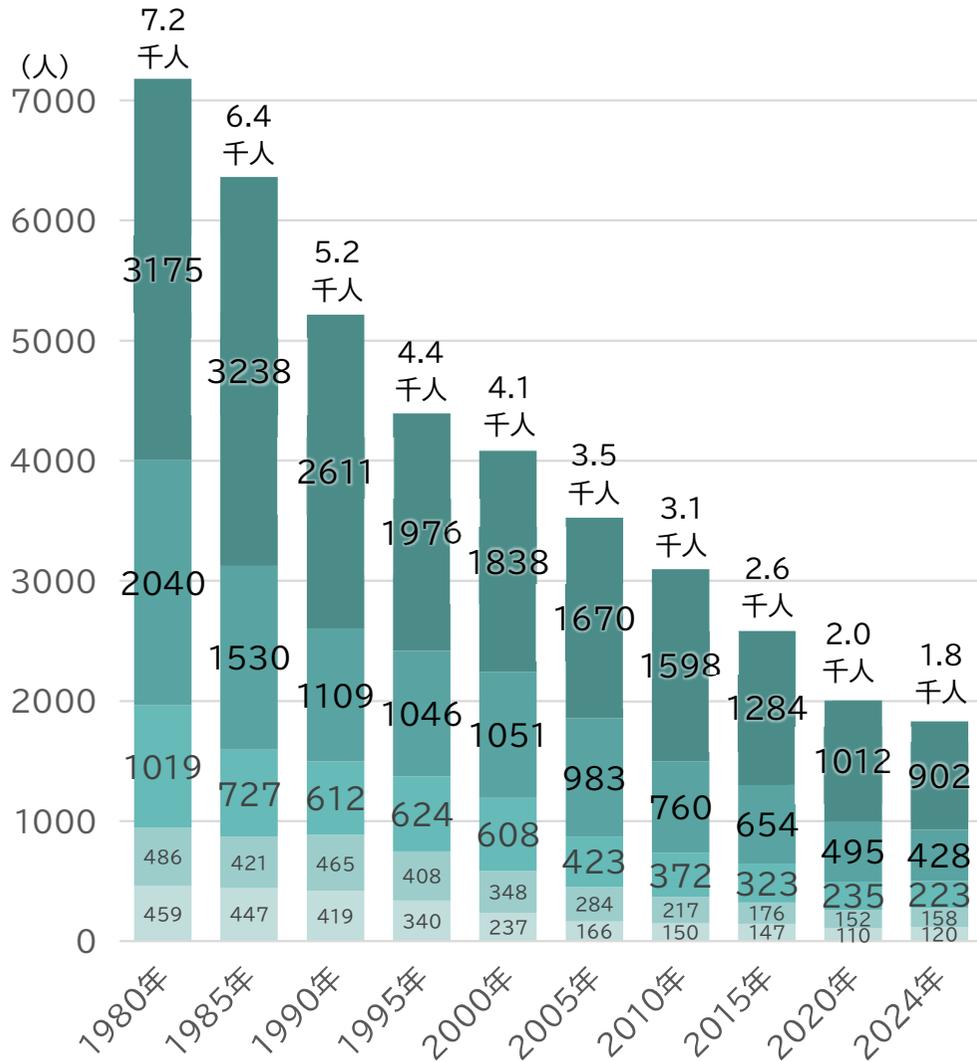
15～39歳がん罹患率(全部位、男女計)



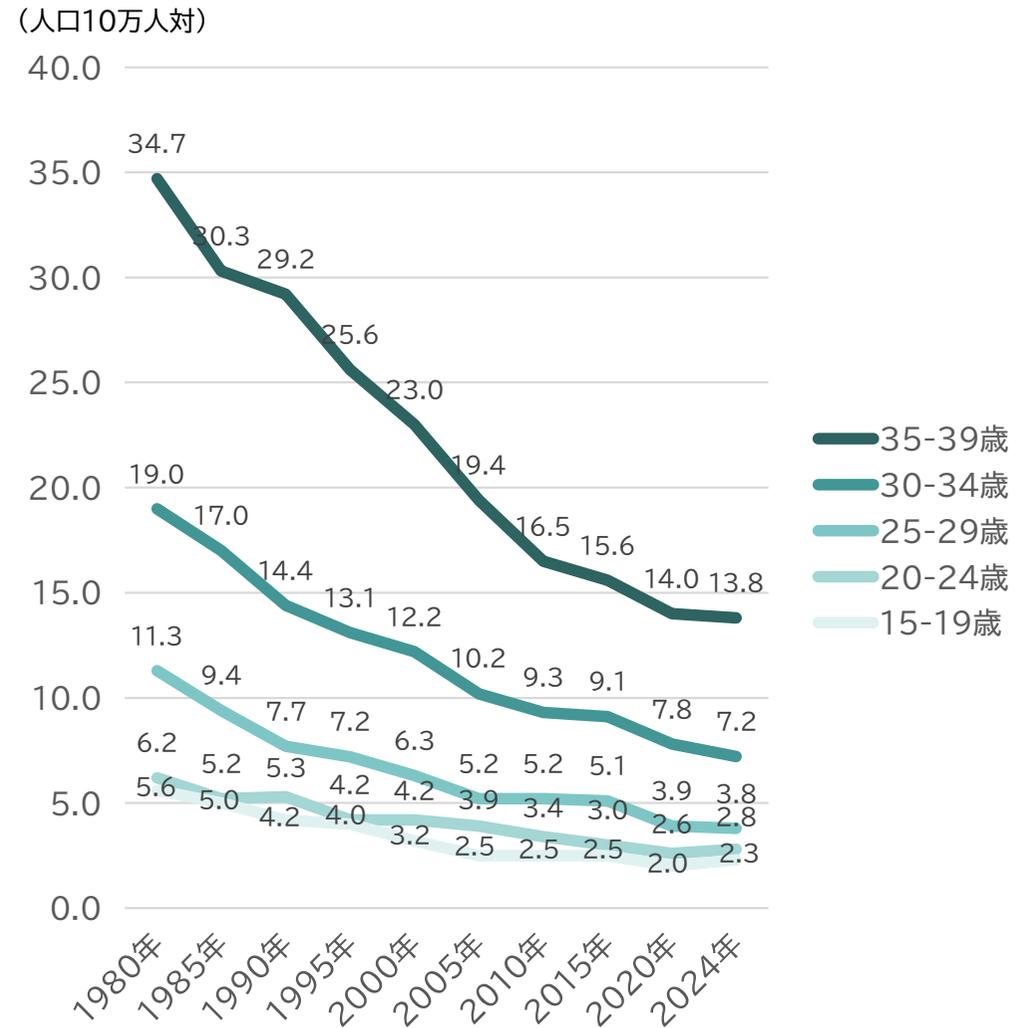
がん死亡数及び死亡率の推移（15～39歳）

AYA世代(15～39歳)について、がん死亡数および死亡率は減少傾向である。

15～39歳がん死亡数(全部位、男女計)



15～39歳がん死亡率(全部位、男女計)



AYA世代のがんの特徴

- AYA世代のがんは、小児以外の他の世代に比べ少ない。
- 罹患者数は、15～19歳では白血病、甲状腺、悪性リンパ腫の順に多く、30歳代では乳房、子宮など女性のがんが多い。
- 死亡者数は、15～19歳では白血病、脳・中枢神経系のがんが多く、30歳代では大腸、乳房、白血病の順に多い。

①罹患者数が多いがん種（2023年）（男女計） ※ [] は全がん（年代別）に占める割合

	総数（全部位）	1位	2位	3位	4位	5位
15～19歳	907人	白血病 172人[19.0%]	甲状腺 134人[14.8%]	悪性リンパ腫 94人[10.4%]	卵巣 84人[9.3%]	脳・中枢神経系 78人[8.6%]
20～29歳	4,120人	甲状腺 717人[17.4%]	白血病 451人[10.9%]	卵巣 410人[10.0%]	悪性リンパ腫 363人[8.8%]	乳房 286人[6.9%]
30～39歳	14,151人	乳房 3,315人[23.4%]	子宮 1,968人[13.9%]	甲状腺 1,490人[10.5%]	大腸（結腸・直腸） 1,461人[10.3%]	卵巣 741人[5.2%]
計(15～39歳)	19,178人	乳房 3,603人[18.8%]	甲状腺 2,341人[12.2%]	子宮 2,195人[11.4%]	大腸（結腸・直腸） 1,709人[8.9%]	卵巣 1,235人[6.4%]

②死亡数が多いがん種（2024年）（男女計） ※ [] は全がん（年代別）に占める割合

	総数（全部位）	1位	2位	3位	4位	5位
15～19歳	120人	白血病 25人[20.8%]	脳・中枢神経系 20人[16.7%]	大腸（結腸・直腸） 5人[4.2%]	肝臓 4人[3.3%]	悪性リンパ腫、腎・尿 路（膀胱除く）、卵巣 3人[2.5%]
20～29歳	381人	脳・中枢神経系 59人[15.5%]	白血病 54人[14.2%]	大腸（結腸・直腸） 31人[8.1%]	胃 29人[7.6%]	悪性リンパ腫、卵巣 16人[4.2%]
30～39歳	1,330人	大腸（結腸・直腸） 203人[15.3%]	乳房 174人[13.1%]	胃 132人[9.9%]	子宮 129人[9.7%]	白血病 104人[7.8%]
計(15～39歳)	1,831人	大腸（結腸・直腸） 239人[13.1%]	乳房 187人[10.2%]	白血病 183人[10.0%]	脳・中枢神経系 179人[9.8%]	胃 162人[8.8%]

出典①：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）全国がん罹患データ（2023年）※上皮内がんは含まない を用いてがん・疾病対策課にて作成

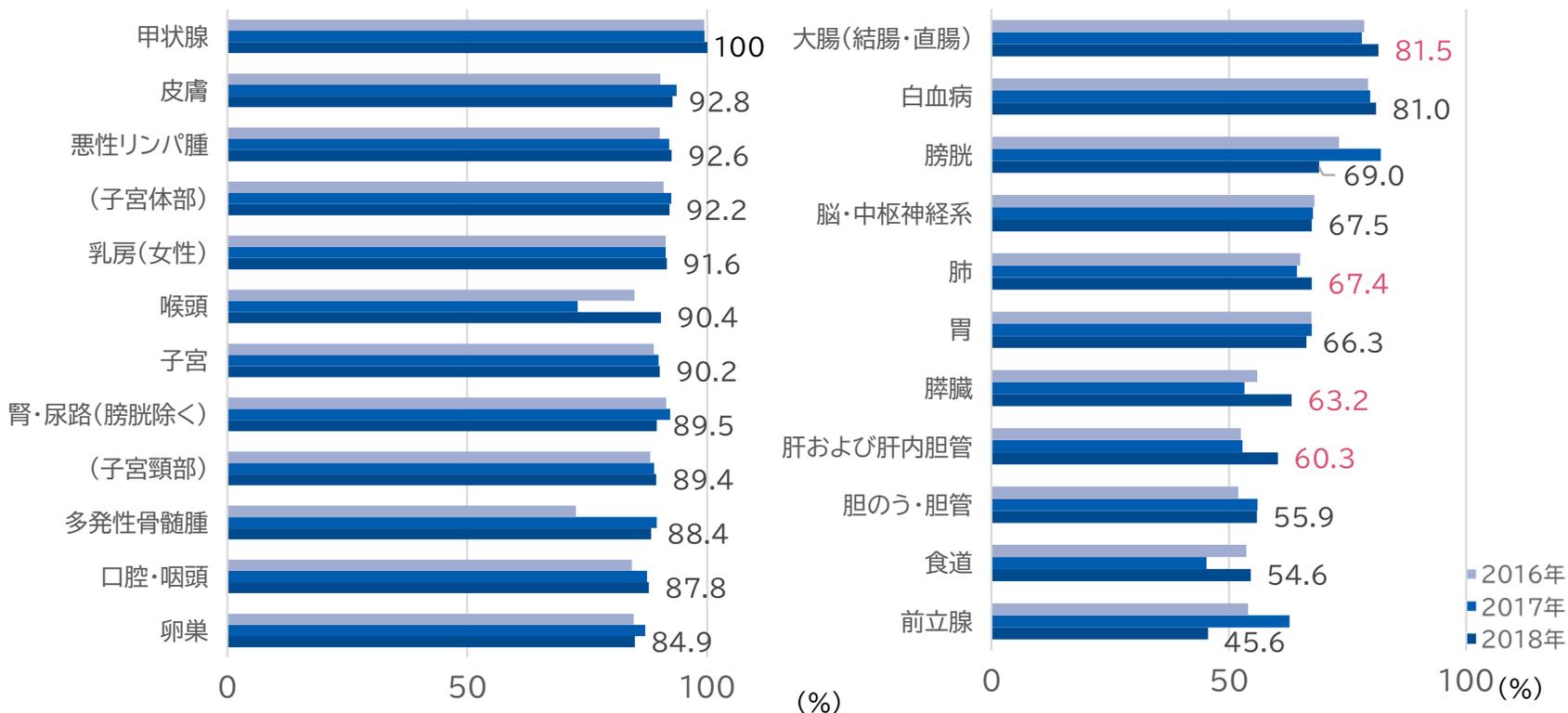
出典②：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（厚生労働省人口動態統計）を用いてがん・疾病対策課にて作成

A Y A 世代において死亡数が多いがんの5年生存率の推移

- がん登録等の推進に関する法律が2016年に施行され、全国がん登録が開始されたことにより、2016年以降にがんと診断された者の5年生存率を国が集計・公表している。
- 2018年に新たにがんと診断された15～39歳の患者の全国の5年生存率は、乳房(女性)で91.6%、子宮頸部で89.4%、大腸(結腸・直腸)で81.5%、肺で67.5%、胃で66.3%、膵臓で63.2%、肝および肝内胆管で60.3%であった。
- 概ね横ばいで推移している中、大腸(結腸・直腸)、肺、膵臓、肝および肝内胆管においては2016年と比較して上昇した(※1)。

(※1)2016年の5年生存率を100%としたとき、2018年の生存率が±5%以上変化したものを上昇又は低下とした。なお、罹患数が少ない部位は生存率のばらつきが大きくなり経年変化の評価が困難であるため、年間罹患数が100未満の部位は変化量の評価対象から除外した。
 注)全国がん登録とは、国において、全ての病院及び指定した診療所から、がんの罹患、診療、転帰等に関する情報(26項目)を収集した上で、当該情報をデータベースに記録し、保存するもの。がん対策全般を科学的知見に基づき実施する上で基礎となる情報の収集を目的とする。

5年生存率の推移(15～39歳)



部位	2018年罹患数
甲状腺	2660
皮膚	417
悪性リンパ腫(子宮体部)	1201
乳房(女性)	739
子宮	3799
喉頭	10
子宮	2542
腎・尿路(膀胱除く)	420
(子宮頸部)	1799
多発性骨髄腫	42
口腔・咽頭	624
卵巣	1330
大腸(結腸・直腸)	1629
白血病	1171
膀胱	64
脳・中枢神経系	682
肺	468
胃	770
膵臓	241
肝および肝内胆管	155
胆のう・胆管	61
食道	57
前立腺	7

※年間罹患数が100未満の部位は網掛け

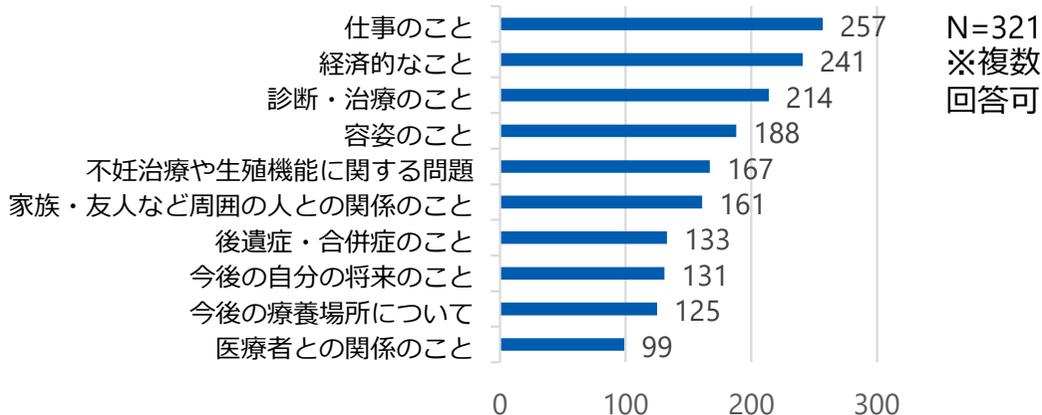
AYA世代がん患者の療養環境等の実態調査

- がん専門相談員は、仕事（257名、80.1%）や経済面（241名、75.1%）に関する相談が7割を超えており、根治困難なAYA世代がん患者の在宅療養には、社会資源の不足が障壁であると7割近く（213名、67.4%）が回答。
- 患者団体に対する調査では、根治困難なAYA世代がん患者への相談支援にあたり「ピア・サポートの重要性」「医療機関との連携」等が課題であることが挙げられた。
- 有識者への調査では、経済的支援、妊孕性温存療法、就労・両立支援について優先的に情報提供すべきとの回答が多かった。

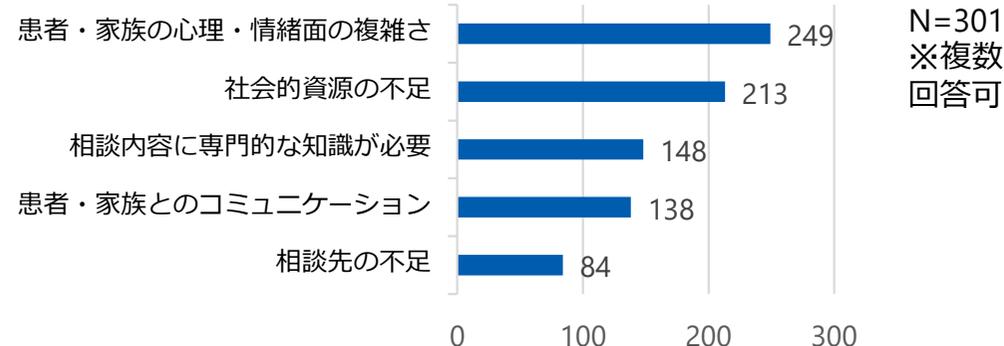
がん診療連携拠点病院等・小児がん拠点病院のがん専門相談員に対する調査※

（47都道府県317施設より回答）

AYA世代がん患者本人に関する相談内容（上位10項目）



根治困難なAYA世代がん患者・家族からの在宅療養に関する相談に対応した際に感じた困難感や障壁



患者団体に対する調査※

根治困難になったAYA世代ピアサポート（相談）の困難さ等について、ヒアリングを実施。

対象者：患者団体に属する者

◆ 相談支援の課題

- 相談内容の多様性や情緒面の複雑さと共にピアサポーターとしての限界や困難さも抱えており、医療機関との連携や制度・情報を含めたリソースの均てん化を求める声が多かった。
- 課題として、「ピア・サポートの重要性」「医療機関との連携」「患者からの情報しかないことの難しさ」「医療機関との連携に必要なリソースの可視化」等が挙げられた。

有識者に対する調査

◆ AYA世代がん患者へ情報提供すべき制度・内容

- AYA世代のがんを専門とする研究者に対して、AYA世代がん患者へ優先的に情報提供すべき内容に関するアンケートを実施。（N=14, 複数回答可）

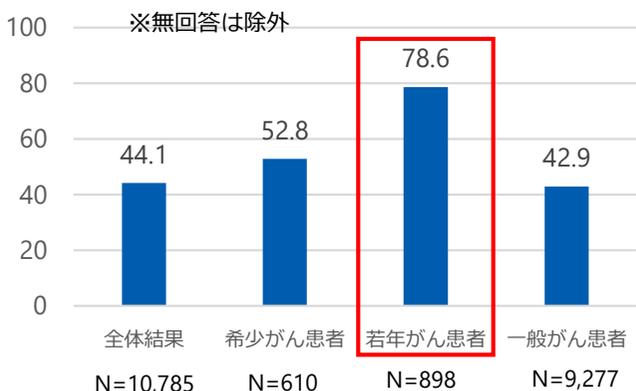
項目	回答数
経済的支援（医療費）	13
妊孕性温存療法	9
就労支援・両立支援	8
経済的支援（生活費）	7
相談支援	6

（※）令和5-7年度 厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 がん対策推進総合研究 清水千佳子「小児・AYA世代のがん経験者の健康アウトカムの改善および根治困難ながんと診断されたAYA世代の患者・家族の生活の質の向上に資する研究」

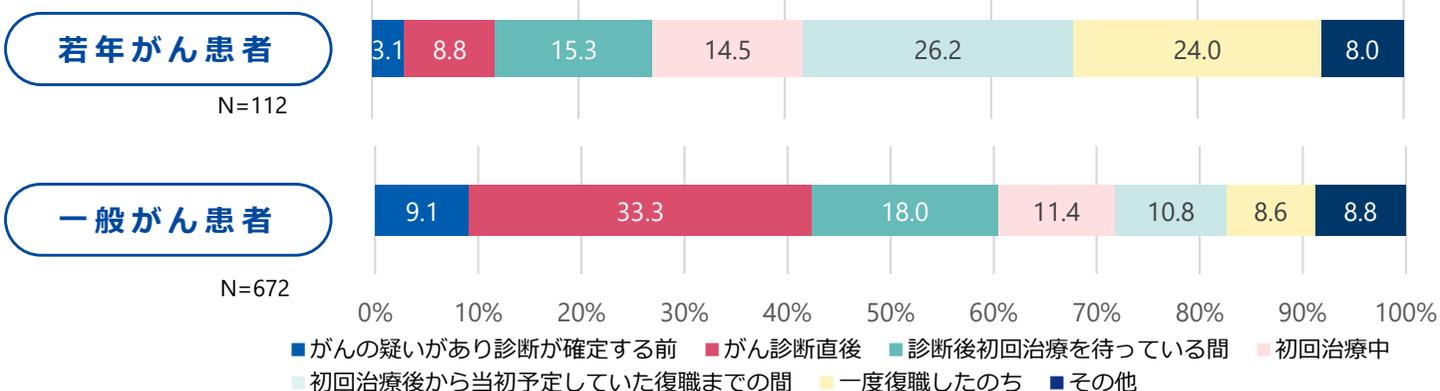
A Y A 世代（若年）がん患者の就労状況等の実態調査

- がんの診断時に収入のある仕事をしてきた人（就労者）の割合が全体結果に比べて高い。
- がんと診断を受けて休職・休業したが退職・廃業はしなかった人が一般がん患者より多い。また、一般がん患者は治療開始前に退職した人が多いが、若年がん患者は初回治療後や一度復職した後に退職した人が多い。
- 治療により退職しても、再就職・復業した人や再就職・復業の希望がある人が多い。

がん診断時の就労状況



退職のタイミング

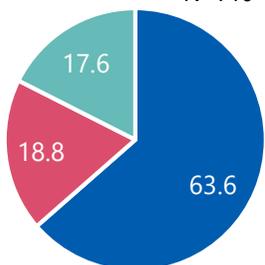


がん治療による就労への影響

※がん診断時に収入のある仕事をしてきた人のみ
わからない・無回答は除外

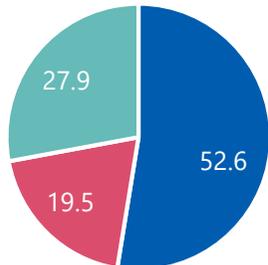
若年がん患者

N=710 (%)



一般がん患者

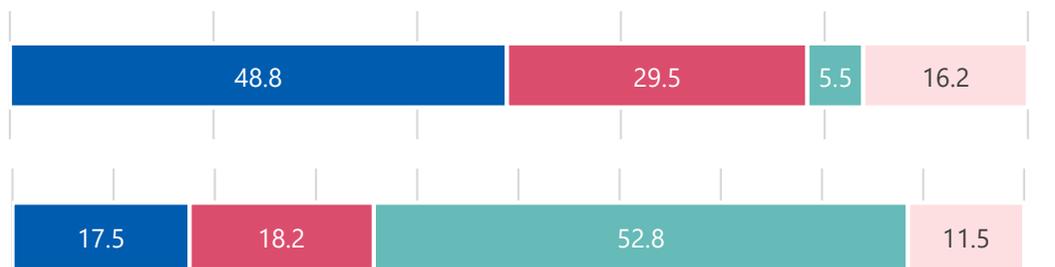
N=3,853 (%)



再就職・復業の状況

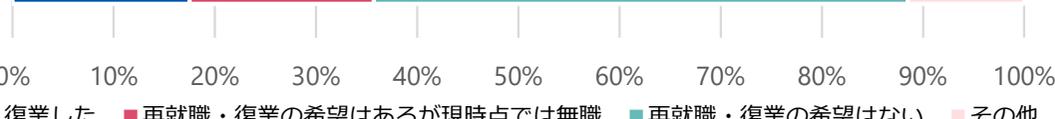
若年がん患者

N=112



一般がん患者

N=680



※若年がん患者は18歳以上40歳未満の患者、一般がん患者は40歳以上の患者とし、希少がん患者はこれらと重複しない。
希少がん患者621名のうち18歳以上40歳未満は168名（27.1%）

※Nは回答実数、%はサンプルの抽出確率を考慮して重みづけした集計値

出典：令和5年度患者体験調査

療養環境等の実態を踏まえた支援制度の周知について

- AYA世代のがん患者の療養環境の課題等の実態調査において、AYA世代がん患者は仕事や経済面等の課題を抱えているものの、患者を支えるための社会資源が不足しているとの相談員の声から、必要な制度やサポートが患者に届いていない可能性があり、在宅療養を含め、経済的支援、妊孕性温存療法等のAYA世代がん患者が利用できる現行の制度について整理し、周知を促進することとした。
- AYA世代がん患者が療養生活を送るにあたり、既存の制度を適切に活用することを推進するため、利用できる制度をまとめたパンフレットやウェブページを作成。（令和8年2月公表）
- 本取組は、都道府県やがん診療連携拠点病院等、職能団体等へ周知することで、AYA世代がん患者本人等による利用のほか、関係機関における相談支援や情報提供の取組等に活用されることを想定している。

パンフレットの内容

- がん相談支援センター
- 患者同士が交流できる場について
- ころろがつらくなったら
- 治療と生活（妊孕性について、リンパ浮腫、晩期合併症・後遺症について、在宅医療・在宅医療以外の生活支援）
- 生活を支える制度について
- がんに関する情報を知りたい場合

監修・協力

国立研究開発法人国立がん研究センター
厚生労働科学研究班

掲載ページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490_00007.html
（厚生労働省 がん対策情報 施策紹介「AYA世代のがん患者向けページ」内）

15歳～30歳代でがんと診断されたあなたへ

がんの治療と暮らしを支える制度ガイド

この冊子では、あなたのこれからを一緒に考え、あなたらしい生活を支えるために、利用できる制度や相談窓口について案内しています。まずは、気になる項目からページを開いてみてください。

目次

がん相談支援センター P.1

1. 患者同士が交流できる場について P.2

2. ころろがつらくなったら P.2

3. 治療と生活 P.3

■ 配偶者との子どもを産み育てることを将来望む可能性がある場合（妊孕性について） P.3

■ 腕や脚などにむくみが起きた場合（リンパ浮腫） P.4

■ 治療を終えた後の健康管理（晩期合併症・後遺症について） P.5

■ 自宅で医療者のサポートを希望する場合（在宅医療など） P.5

4. 生活を支える制度について P.6

がんに関する情報を知りたい場合 P.10

～「AYA世代」という言葉を知っていますか？～

15歳（おもに思春期）から30歳代までの世代のことを、AYA世代（Adolescent and Young Adult（若年成人））と表現しています。

4. 生活を支える制度について

がんになると、病気の治療だけでなく、お金の仕事のことなど、生活こともあります。また、診断を受け、治療を選択していく時期に、仕事や生活を支える制度などを知っておくことはとても大切です。

ここでは、利用できる制度とその相談窓口についてまとめました。詳しくは先へ連絡いただくか、がん相談支援センターをご利用ください。

制 度	医 療	生活支援
公的医療保険制度	○	
療養費（リンパ浮腫）		
妊孕性温存療法及び胎児発生補助医療に対する費用助成	○	
高額療養費制度	○	
小児慢性特定疾病児童等への医療費助成制度	○	
小児慢性特定疾病児童等自立支援事業		○
療育手帳		
雇用保険		
長期療養者就業支援事業		
地域若者サポートステーション		
ハローワーク（就職者訓練・求職者支援訓練）		
身体障害者手帳	△	△
障害福祉サービス	△	△
障害年金		
生活保護者自立支援制度		
生活保護制度	○	○

医療：医療費等により影響やケアを受けられるもの。生活支援：日常生活上の必要給付補助等；金銭的な給付や、補助、優待が受けられるもの。仕事：求職支援や治療と仕事。○：利用可能。△：一部もしくは場合により利用可能。

AYA世代の患者さんを支える制度は、本パンフレットへの掲載内容以外に、都道府県やがん診療連携拠点病院等、職能団体等へ周知されています。実施している事業内容は自治体により異なりますので、お住まいの自治体のウェブサイトなどで、利用できるかどうかについて調べてみてください。